

のと言われなくても、一応、どういう方向性か考えてありましたら教えていただければと思います。建て直すのか、巖原の場合は土地があまりないので、修繕するなら大々的にするのか。いずれにしても予算がすごくかかるとは思いますが、方向性だけでも教えていただければと思います。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 巖原体育館を、例えば大規模修理をすとか、建て替えるとか、そういうふうな方向性につきましては、教育委員会としては、まだ結論は出しておりません。まだ耐用年数も11年ほどありますので、修理できる部分については、修理をやりながら活用をしていただきたい。年間1万7,000人ほどの多くの人が利用されておりますので、巖原体育館につきましては何らかの形で存続をさせなければならぬだろうとは考えています。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） では、そのような方向で、年月はありますので、よい方向に持って行っていただければと思います。

最後になりましたが、指定ごみなんです、今、市長からもいい回答をいただきました。このように老人も多く、久田道の環境をちょっと考えてみましたら、70歳以上の人が46%もあるんです。独身の一人住まいの方が田舎から出てきている方もおられますし、前向きな考えをいただきましてありがとうございました。早く実現できますようお願いいたします。

今日はこれで私の質問を終わります。

○議長（小川 廣康君） これで吉見優子君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 昼食休憩とします。再開は午後1時ちょうどからといたします。

午前11時52分休憩

午後0時59分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

報告します。齋藤久光君から早退の届出があつております。

引き続き、市政一般質問を行います。

3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） 創政の長郷です。一般質問をさせていただきます。

新市政を迎えられて早2か月余りがたうとしておりますが、いまだかつて本市の経済状況は必ずしも……。

大変失礼いたしました。では、改めて伺いたいと思います。

持続可能な「しまづくり」を標榜されて、比田勝市政がスタートされました。達成するためには、いろいろな困難もあろうかと思えますけども、どういった仕事をすればそれが成り立つのか。今、対馬の置かれている状況は、水産業の問題、日韓関係の問題、そしてこのコロナの問題と様々な問題を抱えて大変な時期ではありますが、だからと言って、島をそのままにしておくというわけにはいきません。そういった意味で、持続可能なしまづくりを目指されているという理解をいたしております。

今回は、個別具体的に、どのような仕事を作っていこうとお考えなのか、ひとつその考えをお聞かせいただきたいと思えます。

また、今回の新型コロナウイルス感染症拡大においては、オンライン会議を初め、多くの方々がインターネット等について興味を示されていると拝察しております。そういった情報通信施設をどのように利用していこうとお考えなのか。そして、その達成のためには、どのような施設を整備しようと考えておられるのか。この2点について、御見解をお願いいたします。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 長郷議員の御質問にお答えいたします。

持続可能な「しまづくり」につきましては、所信表明にも掲げさせていただきましたが、SDGsの考え方を取り入れながら、「しまづくり」を進めていきたいと考えております。

現在、「自立と循環の宝の島、サーキュラーエコノミーアイランド」と題して、SDGsの理念に沿った基本的、総合的取組を推進しようとするSDGs未来都市認定に向けた提案を行っているところでございます。サブタイトルの「サーキュラーエコノミーアイランド」とは、循環経済の島という意味であり、廃棄されていたものを新たな資源として捉え、廃棄物を出すことなく資源を循環させる島を将来的に目指すということでもあります。

持続可能な「しまづくり」における産業の育成、仕事の創設についてであります。基本的な考え方といたしまして、農林漁業や観光業の育成が一番重要であろうというふうに考えておりました。基盤である森林資源、水産資源、生物多様性等の観光資源など自然資源の保全に努めることで、対馬の価値を高める事業を組み立ててまいりたいと考えております。

1つ目は、漂流ごみ対策のさらなる推進による海洋環境の保全や水産資源の確保対策を行いながら、水産業の振興はもとより、漂着ごみ回収ボランティア作業の体験などを行うスタディーツアーなどの新たな観光メニューの構築。回収した漂着ごみのリサイクル事業などの創出を取り組んでまいります。

2つ目に、有害鳥獣対策の強化によります農林資源の確保を図りながら、捕獲したイノシシ、

鹿などの食肉等の商品化や産地化を生み出していくとともに、自然環境の維持保全、ウラボシシジミやハナナズナといった希少動植物の保護を図りながら、生物多様性を生かした新たな観光メニュー事業を生み出す取組を進めてまいります。

3つ目に、対馬の資源を活用した民間エネルギー会社による木質バイオマスエネルギー事業や洋上風力発電事業などの普及、推進に取り組み、電力経済の島内循環と脱炭素化を目的としたエネルギー事業の創出に向けて取り組んでまいります。また、持続可能な「しまづくり」を行っていく上では、人材の育成が重要であり、学との連携によって培ったネットワークを生かしながら対馬グローバル大学を開講し、環境、社会、経済、ビジネス等幅広く学ぶ機会を市民の皆様提供していく予定であります。

最後になりますが、Society 5.0の推進も必要な分野であります。よって、それに対応したインターネット、通信環境の強化、情報基盤の整備に努めながら、IT企業の誘致、リモートワーク移住者の勧誘、ワーケーション事業の開拓など社会変革に対応した事業産業を生み出していく取組を進めてまいります。

次に、インターネットを初めとする情報通信施設の効果をどのように捉え、整備するかについてでございますけども、新型コロナウイルスの感染拡大、緊急事態宣言を受け、国内の多くの企業は、出勤時の人混みを避けるべく、社員がオフィスに出勤するのではなく、自宅や本来の勤務地以外のオフィススペースやシェアスペース等で、携帯電話やインターネットを活用して仕事を行うテレワークを推進する流れとなりました。

時間や場所にとらわれない情報通信技術を活用した柔軟な働き方は、労働力の確保、生産性の向上、災害時の事業継続性から政府も推進しているところであります。生産性の低下することへの不安や社員への評価手法が定まっていないなどのテレワークの課題もございますが、この新たな働き方は、都心から離れて自然豊かな対馬に在住していても仕事ができる移住・定住を促すチャンスと見ており、移住者等が市内で活用できるリモートワークを推進するために、テレワークセンター等の整備にも取り組んでまいります。

所信表明でも述べさせていただいておりますが、本市が離島であるがゆえに取り残されることがないように、市民がいつまでも安心して暮らせる持続可能な「しまづくり」を進めていくには、IoTやAIなどの革新的技術によって実現する新しい社会、Society 5.0に向けて、将来を見据えたインターネット通信環境の強化が不可欠であると考えております。

また、情報通信技術の進展は著しく、スマートフォン、タブレットの普及や、都市部を中心に既にサービスを開始しております第5世代移動体通信など、情報通信を取り巻く状況が大きく変化してきており、これに対応するには、最新の情報を踏まえて官民が連携し、一体となって情報通信基盤を整備する必要があると考えます。

このためにも、対馬市内はもとより、本土とを結ぶ通信環境の強化を重要な情報政策の1つと捉え、国、県への要望活動や民間通信事業者への協力、支援など積極的に取り組んでまいり所存であります。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） ありがとうございます。

多岐にわたって取組をなされるという御意見を伺いました。全てをやるにはちょっと時間がないので、まず1つ確認を先におきたいんですけど、一般の市民の方が、SDG sってなんなのということになろうかと思うんで、私のほうからなんですけども、先ほどから言っていますような、持続可能な開発目標を作りますよということで、ずっと住み続けられる町、地域、社会を作り、維持していくための目標というふうに御理解をしていただきたいと思います。それを総称してSDG sという表現を国がしておりますので、そういった意味で今から話を聞いただけだと思います。

SDG sについては、これは最も重要なことで、住み続けるためには、産業、今いろいろ話伺いました。よく考えてみると、これは、私が議員になって3年目なんですけども、よく私が今までどうだろうかと投げかけをさせていただいたものが含まれておるわけですが、まず1点、漂着ごみ対策について伺います。

これ、先ほど、回収とかボランティアとか、その回収体験とかいう話は確かに必要だと考えます。私として1つ踏み込んでいただきたいのは、伊藤忠商事さんが今対馬のほうに来られて、漂着ごみを利用された仕事を展開しようとなされておるわけなんですけれども、この事業と市の環境政策とのマッチングといいますか、そういったお話って何かありますか。まず、そこをお聞かせください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 漂着ごみ関係と、伊藤忠商事との関係でございますけども、私もこの伊藤忠さんが対馬に来られてこの事業に取り組もうというニュースを見たときに、すぐにでも東京に出かけていきたいということにしておりましたけども、ちょうどその時期にこの新型コロナウイルスの関係で感染が広がって、なかなかそちらのほうに行く機会がなかったというところが今現時点でございます。

そういうことでございますので、いろんな情報は今聞いてはおりますけども、このことがある程度落ち着けば、私自ら伊藤忠さんのほうに出かけて、いろいろとお話をさせていただきたいという思いでいるところでございます。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） ぜひ、そのようにお願いをしたいところですね。

漂着ごみについては、今年予算でも2億から3億、回収だけでも2億7,000万程度予算がつけられておりますけども、こういったただ回収だけでは、今までは致し方ない部分もあったと思うんですけども、今後は、伊藤忠さんがやられるこういった仕事、それともう1つは、研究をついでにさせていただきたいと思うのは、活性炭なんです。要は、漂着ごみから出る全ての化学物質を含んだ、また木材、漁網、こういったものも活性炭の材料になるという研究発表がなされております。

ただ、問題点は、塩分を含んでおりますので、これを除去するのにちょっと時間が今かかっていると。これは、ある福岡の大学の准教授が今試験をなさけていますけども、そういった方々とコンタクトを取られて、さっき言った体験ということで対馬に来ていただいて、漂着ごみを回収していただいて、それも1つの対馬の特徴だと。その、かつさっき言ったような伊藤忠さんとは別に、そういった次の電池の材料となり得る活性炭等が取れるという話を伺っております。そこまでしかまだ話はできていないんですけど、これもコロナの関係で会うことができおりませんが、そういった構想を持ってある教授の先生もおられますので、またこういったものもしっかり連携していければ、対馬の漂着ごみも、今までは大変迷惑な漂流物でしたけども、これはもしかすると宝になる可能性がないわけじゃありませんので、研究を進めていただきたいと思います。

それと、さっき言われていた産学連携の対馬グローバル大学の開催。これは面白いアイデアだなと思って見させていただいておりますけども、これ、対馬市がやるんですか。それとも、一般の団体がやるんですか。そこら辺の、さっきのインターネットの周辺整備と兼ね合った部分であろうかと思うんですけども、ここら辺は、一般市民が参加するには、こういったものが手元があれば、このグローバル大学に、受けることができるのか、ちょっと説明をお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この対馬グローバル大学につきましては、市が事業主体になろうかというふうに思っております。

この中で、特にこの通信網、特にオンラインゼミやらオンデマンド等での講義をしていくということで、今現在準備を進めているところでございます。もちろん、対馬市民も参加が可能というようなことで、今大体20名程度を予定しているというふうに聞いております。

講義をされる方は、各大学におきまして対馬を研究されている方が対象になろうかというふうに思っております。この中で、対馬のことをさらに研究をしていただきまして、また対馬の市民の皆様も、我が対馬をこのことを活用しながら活性化に導いていくというような方向性を持って、この対馬グローバル大学を運営していきたいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） 運営は理解いたしました。その一般の方々が参加するために必要な周辺機器というのが必要になるかと思うんですけど、それがパソコンであったり、スマートフォンであったりいろいろあると思いますけども、そのために画像を撮る必要があるとか、マイクを持っておく必要があるとか、初歩的な部分で結構ですけど、部長でも結構ですけども、こういったものが市民が用意できれば参加できるのか、この際しっかりPRしていただきたいと思っています。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 詳しいことにつきましては、担当部長のほうから説明をさせます。

○議長（小川 廣康君） しまづくり推進部長、武末祥人君。

○しまづくり推進部長（武末 祥人君） ただいまの対馬グローバル大学について、簡単に説明をさせていただきます。

今予定しておりますのが、ウェブ講座、デマンド型、ユーチューブを活用したウェブ講座とオンラインゼミを予定しております。この募集につきましては、7月の市報に掲載を予定しております。

講師につきましては、今まで対馬について研究いただいている先生、60名程度をリストアップしております。その中からいろんなテーマ、内容を決めております。そういった中で、受講されるものを選んでいただくと。

一般の方がネット環境、整っていない方につきましては、上、中、下ということで、公民館等でそういう環境を整えて、オンラインゼミにつきましては、そういった時間を区切ってやろうと思っております。ただ、ウェブ講座につきましては、オンデマンドですので、いつでもできるということですので、この辺も公民館を使ってできないか、その辺今から詰めていきたいと思っています。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） そういった時代に入ってきておるわけで、なかなかいいことだと思いますので、できれば多くの方が参加できる体制を早く構築していただいて、もっともっとインターネット環境が必要だということを理解していただければと思います。

そのインターネットなんですけども、Society 5.0、市長も所信の中で話をされましたけども、IoTとかAI、これは理解できるんですけども、今本市において、それは将来的話であって、現実的に今こういう、さっき言いました3つのいろいろなリスクを背負っている経済状況の中で、果たして今取り組むべき、優先順位的にはそんなに早くはないんじゃないかと考え

るんです。

Society 4.0で、結局インターネットを活用して情報をいっぱい集めましょう、皆さん使いましょうと言って、人間の連携を取りましょうというのが4.0ですから、それができなかったという政府の1つの反省はあるんですよ。その4.0ができなかったから、今度はそういった過去のものを集積したものを集めて、AIという形に全部インプットしてそれを活用していこうというのが5.0だから、5.0というのは、市も明治大学と共有されてやる自動運転がここに入ってこようかとは思いますが。

対馬市内において、前も質問があったかと思うんですが、その自動運転ができるエリアって正直言って限られますよね。これは、やるなという意味ではなくて、やればいいんですけども、そういった、逆に高齢化社会になって必要な事項ではあるんですけども、少なくともエリアが広がらないとなかなか理解が進みにくいという私は感想を持っているわけですけども、基本的に、どういった場合でこのAIを活用して、本市は、いこうと考えてあるのかお聞かせください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） どういった場合を想定しているのかということでございますけども、もちろん、まず第一に、今現在進めておりますこの自動運転関係を、本年度も、まず上地区のほうでも進める計画でおります。ただ、このAI関係を活用して進めるとしましても、今対馬の中でこの情報通信の部分がまだまだ脆弱であるというようなことでありますので、この情報の脆弱さを是正する意味でも、インターネットの基盤関係をもう少し整備する必要があるかというふうに考えているところであります。今現在、対馬市も、総務省の地域情報化のアドバイザーであります鹿児島大学の先生の御支援を受けて、対馬市の情報通信基盤整備の策定に着手しております。

これで、実は昨年に総務省の諮問機関であります情報通信審議会内に設置された情報通信基盤の在り方ワーキンググループへ出席をいたしました。このワーキンググループでは、光ケーブルを所有する地方自治体やNTT、KDDI、ソフトバンクといったような主要な通信事業者とケーブル事業者が参加してそれぞれ意見交換が行われましたけども、その中に、自治体から唯一出席をいたしました対馬市に対しまして15分間程度のプレゼンテーションの時間をいただきましたので、離島対馬における情報通信基盤の現状と課題を私自ら訴えてまいりました。

この結果も一因があるかと思うんですけども、この審議会の答申の中で、今後は公設から民設へ、そしてまた公営から民営へと移行を促すことを視野に入れた対応を講じていくべきであるというような方向性が見出されました。そして、また新たに、これまでこの更新等におきましては補助事業の対象外でありましたものが、設備更新費用に関しまして、その設備の譲渡と高度化が条件ではありますけども、補助事業の対象になったというようなことは大きなことであろうか

というふうに思っております。

こういうことも視野に入れて、今後この対馬市の情報基盤のほうを、民間移行への可能性も視野に入れながら強化してまいりたいと思っております。

まず、そのことによって、今後AIの活用、そして5Gへの早期構築、こういうところが始められるのではないかなというふうに考えているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） 過去にインターネットをかなりしつこく質問させていただきましたけども、かなりすごい速度で、約5Gぐらいも来ているんじゃないですか、速度が。そういうふうにして、市がどんどん進めていただいていることは、大変うれしいことです。

私がお尋ねしようと思ったのに、市長がもうおっしゃったですけども、公設光ファイバー及び関連施設の民間移行ガイドラインというのができますよね、既に御承知でしょうけども。ここだと、極端に言いますと、対馬市CATV、これも全部やりますよ、民間に、という話なんですよ。10年以上たっておけば、補助事業であってもそれ関係ないよと、総務省はもう既に言っている。こういう環境にあるということで、毎年、今器具の更新、機器の更新をやっておりますけども、話が成熟すればの条件つきですけども、そういった部分を民間主導でやっていただければ、逆に私は産業として成り立つんじゃないかと考えております。

その分、市の持ち出しの財源が余裕が出るわけですから、今市長がおっしゃられた農林観光資源の保全に関する働く場の確保等についても、こちらで投資ができるという流れが生まれるんじゃないかと考えております。

だから、今から検討で、まだガイドラインも出た段階ですから決定じゃありませんけども、その中身をずっと見てみますと、今おっしゃられたように、市にとってはマイナスの部分はあまりないんじゃないかと。ただ、あと電柱とか伝送路とか、こういった部分がありますから、財産処分の問題でいろいろあろうかと思いますが、できるだけ早くこの話は進めていただきたいなと考えます。

民間というのが曖昧な言い方ですけども、別に特定は、このガイドラインについては書かれていないようでありますので、これは早急に、こういった委員会なり協議する場を作られてはいかかかと思えます。ぜひ、そういう方向で財政支援ができる段階まで来ておりますので、やっていただきたいと思えます。

そうした中でいくと、インターネットについても、テレワークについても、だんだん発達してきますので、これはひとつ、予算は通っていますけども、観光とかの部分に大きなプラスになってくるのが予想されるわけですね。今まで物産展行っていました。関西、関東に人間が行ってました。このコロナの時代になって、なかなか行くのは厳しい。そうすると、今言ったような



ブロードバンドを利用した形の物産展が開催されるわけです。

これを聞いてある方は、一番早く言えば飲み会ですね。ユーチューブで飲み会をして、全国の人たちで顔をつないでやろうと。飲み屋には行けないんで、自分の家でそういった人たちと共通の話をしながら楽しみましょうというような、今ネットワーク時代ですよ。だから、それが物産展でも可能じゃないかと。

逆に、対馬の自然のよさ、植物、動物を含めて、映像として人々に見ていただくことができる。今までは写真として見ていたわけですけども、今度は映像として、リアルタイムで見えていただける。というのが、うちの島のよさがもっともっと深く分かっていたら環境になるんじゃないかと私は考えております。

すぐできるとは思っておりませんが、その方向でぜひ、観光物産のほうのみならず、環境のほうも併せてですけども、そういったものを進めていきたいと思いますが、これについて御意見はありますか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） これは、今政府が進める事業でもあります。そして、またこのたびの新型コロナウイルスのパンデミックによりまして今ますますこのリモートワークが求められているということでございます。このリモートワークを進めるためにも、先ほど申しましたように、このような事業に早期に取り組んで完成をさせてまいりたいという思いを持っております。御協力をお願いしたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） ぜひ、そういう方向でお互いに進んでいきたいと思っております。

別の話題に切替えますが、人口の問題なんですけども。

私は、度々、定住、移住、I・Uターン関係を取り上げさせてもらっております。この今回の予算についても、1つ御意見をということで申し述べましたが、特措法に基づく空き家対策じゃなくて、使える空き家、市長も先ほど、午前中からの質問の中で答え、なされたと思うんですけども、リストアップのランクを何段階か作られて、改修が必要としない空き家は結構あるのではないかと私は思っているわけです。

今回は、2つで約900万程度の予算を要求されておりますが、それはそれとして、使える空き家、ここ二、三年で空き家になっているのは私の住んでいる豊玉管内でもかなりあります。使えるんですよ。そういったリストを、前々から各振興部を通じて、整理されたらいかがですかという提案をしてきたつもりなんですけども、空き家特措法の対策のみで今終わっているようですので、ぜひこれは、別の角度で進めてもらいたいです。ネット環境ができれば、そういった空き家の状況をリアルで伝えることができるんだから、「この家だったら住んでもいいよね」、

「この環境だったら住んでみたいね」という環境が整うと思うんですよ。それが、空き家対策につながって、市長も言われました2極点生活、リアルライフという形が整うんじゃないかと。そうならば、女性だけでも移住できるよと、この地域だったらという安心感。これが表現できると考えているわけです。

だから、改修に金をかけるのはいいんですけど、多額の金をかける必要はないと思うんです。こういったリストアップをして空き家対策をして人を呼び込む。だから、それは移住じゃなくてもいいんです。定住じゃなくてもいいんです。国が言う関係人口という感覚でもいいんです。だから、冬の間は向こうにいて、夏の間はこちらで生活する。極端に言えば別荘みたいな感覚でも別に構わないと思うんですよね。

ただ、それは所有としてはっきりさせないといけないので、そういった空き家対策の窓口を作られるお考えはお持ちではないですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この前の質問の中でもちょっと申し上げましたけども、この空き家対策といたしまして、今後島おこし協働隊を3名雇用するという事を申し上げました。

この中で、今議員がおっしゃられるようなランクづけをしてみたり、本当に、できるだけ改修に金がかからない空き家のほうからリストアップをしていけばいいなというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） ぜひ、そういうふうにして、空き家を有効活用していただきたいと思います。おのずとそうすれば、観光に対する経費もかなり減ってくるんじゃないかなと思いますので、そこら辺の予算を、地域の人たちが望んでいる、今現在ここに住んで生活をされている方々が望まれている道路や水路の改良のほうに予算を向けていただきたい。最終的には私はそう思います。

この、今から先また50年に1度の大雨が来るかもしれません。そういったものについては、予算を必要としますので、今お話しをさせていただいているようなことを実現していけば、経費もかなりそちらのほうに回すことが可能だと私は考えておりますので、もう一度そこら辺を再検討していただきたいと考えております。

それと、もう1つお願いしたいのが、生物多様性をよく言われます。前回は、生物多様性でいろいろ私は、対馬にしかない動物、生物を羅列させていただきました。今ウラボシジミについては、ちゃんと保全されておりますけども、まだまだ対馬でしかないキスゲ類については、いよいよ鹿、イノシシの被害で全滅の危機に瀕しております。ここら辺をもう少し大事にさせていただきたいなという気がしております。

植物の分布で、特質な地域にあるこの対馬市ですから、そこら辺は私がもう言うまでもなく御理解いただいていると思いますけども、なかなか予算とか人件費の問題とかが壁になって先に進んでいないんじゃないと推測をいたします。そういったときに、ぜひ今言ったような話を早く実現されて、対馬の生物園みたいな、植物園みたいなやつを、どうしても1か所、私は早く作っていただきたいという思いを持っております。

だから、個別的にはいっぱいありますけども、その話だけで終わってしまうんですね。話だけで終わってしまって、結局いつの間にか絶滅しているよという、昔話になってしまうとちょっと悲しいものがあるかと思しますので、協働隊の中でも生物多様性の隊員がおられると話を伺っていましたが、そういった方とよく御相談されて、調査はもう十分されているはずですから、今度はそれを形として見える方向で実現に向けて頑張っていたいただきたいと思うわけですね。

それでもう1点、これはちょっとあまりいい話じゃないんだけど、市が事業をいろいろ委託しますよね。その委託先が、ほとんどが観光物産協会なんですよ。今までなかったからしょうがないという部分も理解しますが、私は、ここに新たな産業が生まれると見ているわけです。そういった産業をやってくれるのは、島の中にいる人かもしれませんし、外から入ってきてくれる人かもしれません。それは、どこに視点を置くかによって、大きく差が変わってくるところなんですけど、できれば観光物産協会にかわるそういったその組織を育成していただきたいなど。

一度は株式会社対馬活性化事業会ですか、が昨年いろいろ仕事したみたいですけど、ああいった団体とか、もう既に活躍してあるMITさんであるとか、そういった人たちの団体をもっともって呼び込めないかなと。だから、さっきグローバル大学の中でもそういった話が出るか出んかは分かりませんが、利用していけば面白い話ができるんじゃないかなという気がしています。

弊害になっているもの、これが1つあるんですけど、対馬市宿泊施設等機能向上整備支援補助金、これは今回出た分でしょうね。これがちょっと気に食わない部分が1つあるんですよ。参加要件、一般社団法人対馬観光物産協会に加盟している者もしくは加盟する者。義務づけていますよね。だから、今私が話している部分と、それは大きな齟齬があるんですけどね。

こういうものを書き込んで、補助金を申請してくださいというのはいかななものかと考えるんですが、部長でも結構です。こういったいきさつが何かあったんでしょうけども、説明いただけますか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 今、3点ほどあったのかなというふうに思います。

その中の、特に今現在の観光物産協会の在り方と申しましょうか、このことにつきましては、この7月から民間の観光アドバイザーを招聘いたしまして、この対馬の本当に体験型観光を主に

した、またいろんなパターンの観光を指導していただくということで、今現在準備をしているところでございますし、あと1点、これまで観光物産協会だけでございましたけども、私が今聞いている情報の中では、民間の方が対馬で観光物産協会的な事業を始めるということで、そういう旅館、ホテルへの紹介、そして土産物屋、食べ物屋、全てに関わりながら、対馬の観光産業を活性化させていきたいという思いを持っておられるようでございますので、市といたしましても、できる限りの協力を惜しまないつもりであります。

3点目の件につきましては、部長のほうから答えさせていただきます。

○議長（小川 廣康君） 観光交流商工部長、二宮照幸君。

○観光交流商工部長（二宮 照幸君） 3点目の宿泊施設等整備機能向上促進事業補助金の要件といたしまして、観光物産協会の会員をひも付けしている理由ということでございますけども、現在、対馬市では、観光におきましては、観光物産協会と一緒に各観光事業者の施設の整備あるいは受入れ体制の充実、そういった観光の振興を進めているところでございます。

今回のこの補助金につきましても、単なる施設の改修だけではなくて、やはりそれぞれの施設の特徴を生かして自分の施設をPRしていく、そういう体制を作っていただきたいという思いもありまして、そういう条件も少しつけさせていただいております。

そのような関係で、行政、そして観光物産協会、そして各観光事業者の方、一緒の方向を向いていきたいという思いから、観光物産協会のほうの加入、そして協会に加入していただくことによって、また行政の情報であり、観光の情報でありが施設さんのほうにも流れていくようになりますので、そういう加入を進めているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） 聞けば理由は理解できないわけじゃないですけども、今市長が説明されたように、新たにそういった分野の進出を考えている人がいるということは、ある反面、こういう縛りを入れてしまうといかがなものでしょうかと。

私も観光物産協会、全く知らない人間じゃないわけですけども、あまりにも負荷をかけすぎると、協会本来の動きがだんだんちっちゃくなっていくんじゃないかと。それで、偏った紹介の仕方を時々会員の方々から聞くことがあります。「俺のところにそれ情報あったっけ」みたいな話が時々あります。知っている人はしっかり持っている。それはどの業界でもあることかもしれませんけども。

新たな産業を生み出すという意味は、別にハードだけじゃなくて、こういったソフトが、今から対馬いっぱいいると思うんです。考えられると私は考えております。それについては、時間がありませんので終わりますが、1点だけ最後にお聞かせください。

先ほどからずっと言っています植物公園、あえて言っておきますけども。そういった類いのもの

のをぜひテーブルにのせていただきたいと思いますので、御検討の考えはあるやないやお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 対馬特有の植物を集めた植物園構想というようなことであろうかと思えますけども、今現在、これまで対馬市といたしましては、ハード的な植物園というよりも、今の対馬のこの自然を生かした植物園構想というようなことで、これまで進めてはきているんですけども、ちょっと私も今その計画の名前が出てきませんが、そこら辺は、ハード、ソフト含めて、こちらでまた、可能であろうか、またその経済的な面ももちろんあるでしょうから、そこら辺も含めていろいろ研究をしてみたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） ぜひ、特定の地域に作れと言っているわけじゃなくて、保護をしていきたいと思いますという方法もあるわけですから、ちっちゃいエリアをいっぱい持つよりも、1つ群生しているエリアをちゃんと保護していきたいと思いますという形でも植物園はできるわけですから、あえて投資する必要はないかと。そこら辺を調査はされているはずですから、しっかりそこら辺は活用していただいて、今後の検討課題にさせていただければと思います。

以上で終わります。

○議長（小川 廣康君） これで、長郷泰二君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩をいたします。再開を2時5分からといたします。

午後1時49分休憩

午後2時03分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 15番、清風会の大浦でございます。

本日、最後ということでございますが、ひとつ50分、しっかりと私の話を聞いてください。

私は今回、観光産業の危機、いわゆる、今年の7月に韓国の観光客は8割、9割と、今年の2月までの間、ほとんど、これに携わる産業の事業者は不況に陥り、そして、今年の春に何とか旅行会社が対馬を訪ねるといふかすかな情報のもとに期待をしておったわけですが、これまた、コロナの入国制限により、韓国の船はストップとなったのが3月9日でございます。

非常に8か月の間、苦しんだ業界の方々がさらにコロナの長期化する、この低迷する日本の経済の中で苦しむことになったわけでございますが、幸いにして、国の持続化給付金の支給、また、